

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	太良町立多良中学校
1 前年度 評価結果の概要	前年度の重点目標は、①「学ぶことの楽しさ」を感じる、魅力ある・わかる授業づくりを推進し、学力の向上を図る。②自己肯定感、自己有用感を育て、自他を大切に、将来の夢の実現を育む。③道徳を中核とした教育活動全般を通して、規範意識を高め、豊かな人間力を育成する。の3点であった。すべての項目においてA・Bの達成度を得ており、おおむね目標達成ができたとの評価結果であった。生徒は、89.1%であり、特に3年生は92.7%が肯定的な回答であった。学年が上がるにつれ、自己肯定感や自己有用感の醸成につながっていると考えられる。中学校での様々な「学び」が効果的に働いていると考えられる。③については、道徳の授業や体験活動等とおして、生徒の道徳的価値や心情・意欲の向上につながり、生徒の規範意識の醸成を図るとともに、豊かな人間力の育成への手立てのひとつとなつたと考えられる。次年度に向け、上記の取組を継続するとともに、様々な活動を意図的に仕組んでいくことで、学校教育目標の実現につなげていきたい。
2 学校教育目標	自立の精神に満ちた豊かな人間力の育成
3 本年度の重点目標	1 魅力ある・分かる授業づくりを推進し、学力の向上を図る。 2 自己肯定感、自己有用感を育て、自他を大切に、将来の夢の実現を育む。 3 道徳を中核とした教育活動全般を通して規範意識を高め、豊かな人間力を育成する。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。 ●生徒意識調査で「一人一人に分かりやすく教えてもらっている」の回答率90%以上を目指す。	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。 ●生徒意識調査で「一人一人に分かりやすく教えてもらっている」の回答率90%以上を目指す。	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ●TTIによる授業を行い、困り感を持つ生徒の支援を行う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●意識調査で「心の教育に対する生徒・保護者のプラス評価が93%以上を目指す」 ●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的な対応ができていると回答した教員90%以上を目指す。	●学年のスタッフをチームとして全職員が道徳の授業に携わり、生徒の道徳心(道徳的価値)の向上に努める。 ●道徳の指導案や資料を共有し、ICTを活用して授業の充実を図る。 ●生活アンケートを月1回実施し、情報を共有しながら予防的措置や早期発見、早期対応に努め、適宜教育相談を行う。 ●Q-Uテストを実施し、生徒の学校生活の状況を客観的、個別的に把握することで要支援生徒に対して日常的な支援を行う。 ●保護者との連絡を密に行うなど、小さな情報を見逃さないよう家庭・地域・関係機関との連携を強化する。	A	●全職員で道徳の授業に取組み、生徒の心の受容を学年職員で見取ることができている。 ●意識調査を行った結果、「心の教育に努めている」と肯定的に受け止めている生徒は92.5%、保護者は96.6%と、目標に到達できている。 ●生活アンケートを月1回実施するとともに、いじめに特化したアンケートや教育相談も適宜行い、いじめの早期発見、早期対応に努めることができた。 ●Q-Uテストを2回実施し、学年会などで生徒全体の状況把握や個々の生徒の状況把握に生かすことができている。 ●今年度は、地域と連携する事業は起きていないが、保護者との連絡・連携を密に行うとともに、生徒が抱える課題に早期に対応することができている。	A	●担任を中心として道徳の授業に計画的に取り組んだ。学年の指示板にも授業の様子や生徒の感想を掲示し、学年全体で「心の教育」に努めた。 ●意識調査の最終結果、「心の教育に努めている」と肯定的に受け止めている生徒は97.4%、保護者は92.5%、教職員は94.1%であった。今後も学年通信や学級通信を通して保護者へ発信しながら、学校全体で「心の教育」に取り組んでいきたい。 ●月1回の生活アンケートやいじめに特化したアンケートも適宜行い、いじめの早期発見、早期対応に努めるとともに、気になる生徒に関しては職員会議等で共通理解をし、全職員で指導を行うことができた。しかし、8%の保護者がいじめの未然防止に対して否定的な意見であり、来年度の課題である。 ●Q-Uアンケートを2回実施し、生徒全体の状況把握と個々の生徒の状況把握に生かすことができた。 ●保護者や地域との連絡・連携を密に行うとともに、生徒が抱える課題に早期に対応することができている。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒70%以上を目指す。 ②健康意識の調査項目で、生徒・保護者の保健指導に関するプラス評価85%以上を目指す。 ③「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上を目指す。	●昼休みに運動場を開放し、積極的に運動に取組む生徒を増やす。部活動への参加を推進する。 ●保健室からの健康維持・増進に関する情報発信の充実を図る。 ●主に給食時間を利用して、生徒自身が望ましい食習慣を身につけようとする意欲の醸成につなげる。	A	●夏休みと冬休みに毎日60分間の運動に取組む機会になるよう「1日60分間の運動」を宿題にし、運動習慣の形成を啓発した。部活動への参加推進は継続して実施することができている。 ●アンケート結果のプラス評価は85%以上で目標達成できた。保健だより、放送、集会で情報発信、保健室で個別の保健指導を行った。 ●食育強化期間の生活習慣チェックのフィードバックができた1年生は、学校評価アンケートで「当てるはまる」を選んだ生徒が100%であった。担任からの指導が大変有効であると思われるので、他学年でも話をしてもらう機会を増やしたい。また、その取り組みを家庭にも伝えられるようにしたい。	A	●体育の授業以外で、体力を向上させるため、1日1時間以上の運動については、「よくあてはまる」、「大体あてはまる」では、生徒76.9%、保護者92.5%で生徒は、70%以上に達した。部活動等の推進と夏・冬休みの啓発も一要因ではないかと考える。 ●3年生と職員に関してはプラス評価100%達成で、全体的にも85%を超えているので目標達成ができた。全校集会、保健だよりや日頃の声掛けなどで保健に関する指導ができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ●家庭・地域と連携した「開かれた学校づくり」のための工夫・改善	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●学校行事や授業参観への保護者の参加率40%以上を目指す。	●毎週水曜日を「定時退勤日」とし、行事黒板に提示し、意識高揚を図る。 ●運営委員会が議案について細部まで検討し、職員会議は主に周知・確認の場として時間短縮を図る。 ●連絡事項は「スクールネット」「テレビモニター」を活用し、連絡会等の回数、時間を短くする。 ●学校だよりや学年・学級通信、学校情報メール等を利用して、家庭への連絡や情報の発信、提供に努める。 ●学校行事や授業等に外部指導者(地域の方)を講師として招く。	A	●毎週水曜日を「定時退勤日」とし、行事黒板に提示したことで、時間外勤務時間の削減は果たされた。 ●「スクールネット」「テレビモニター」を活用して連絡事項等を行ったこと併せ、会議等で要領よく発言を行ったことで、会議を時間内に終えることができた。 ●新型コロナウイルス感染症予防のため、学校行事や授業参観等に外部指導者を招くことや保護者の参観を得ることはできなかったが、学校メールを活用して保護者への情報伝達が行えた。	A	●毎週水曜日を定時退勤日について定着した教師は84.2%で、職員の時間外勤務時間の削減に対する意識は醸成されていると考える。 ●運営委員会が議案について細部まで検討し続けたことで職員会議は主に周知・確認の場として時間短縮が図れた。 ●「イントラネット(町スクールネット)」を活用して連絡事項等を行ったこと併せ、会議等で要領よく発言を行ったことで、会議を時間内に終えることができた。 ●新型コロナウイルス感染症予防のため学校行事や授業参観等への参加を控えていただくことになったが、諸通信やメール配信等で保護者とのつながりが絶えることはなかった。保護者の評価としては96.7%であった。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
				○特別支援教育の充実	○支援が必要な生徒に対する理解に努め、個に応じたきめ細かな対応ができる校内支援体制の構築	○意識調査で、保護者及び教職員の特別支援教育に対するプラス評価85%以上を目指す。	●個別の支援計画を作成し、特別支援会議やケース会議を適宜開催し、職員の共通理解のもと、適切な支援の在り方を探っていく。 ●夏季休業中に講師を招聘しての研修会を含め、特別支援教育に関する研修会を複数実施し、個々の生徒に対して適切な対応ができるようにする。
○学校行事への参画	○生徒・保護者の学校行事への参画意識の向上	○意識調査で、学校行事参画に対する生徒・保護者のプラス評価85%以上を目指す。	●生徒一人一人が役割を持ち、出番の機会が増えるように検討し、それぞれの学校行事を実施する。 ●生徒会活動を中心に、「気づき、考え、行動する」を念頭に置いた指導を展開していく。	B	●生徒会活動への積極的な参加に対する肯定的な回答について、生徒が86.7%、保護者が88.1%であった。 ●生徒の主体的な生徒会活動を促す指導について、肯定的に回答した職員が87.6%であった。	A	●生徒会活動への積極的な参加ができていると肯定的に回答した生徒が87.2%、保護者が85.8%であった。 ●生徒の主体的な生徒会活動を促す指導について、肯定的に回答した職員が89.5%であった。 ●中間より向上した数値が多く、今後も生徒が主体的に取り組める環境作りを行う必要がある。また、新型コロナウイルスの影響で学校行事等ができていない分、保護者に生徒会活動を「知らせる」手立ても必要になってくる。
○適時的確な情報発信	○学校教育目標の周知・徹底	○教育目標「自立の精神に満ちた豊かな人間性の育成」と重点目標について、生徒・保護者・教職員への周知率90%を目指す。	●学校教育目標、重点目標について、職員会議等を利用して職員へ呼びかけ、それぞれの職員の校務分掌の中で具現化を呼びかける。 ●職員会議資料やPTA役員会資料に学校目標を掲示する。	A	●学校評価アンケート集計結果、生徒への周知度は99.1%、保護者への周知度は93.2%であり、学校教育目標、重点目標はおおむね達成できている。教職員の認知度は100%、校務分掌の中で具現化を図っていくことが課題。	A	●学校評価アンケート集計結果、生徒への周知度は99.3%、保護者への周知度は93.4%であり、学校教育目標、重点目標はおおむね達成できている。教職員の認知度は100%、校務分掌の中で具現化を図っていくことが課題。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	本年度の重点目標は①魅力ある・分かる授業づくりを推進し、学力の向上を図る。②自己肯定感、自己有用感を育て、自他を大切に、将来の夢の実現を育む。③道徳を中核とした教育活動全般を通して規範意識を高め、豊かな人間力を育成する。の3点であった。 ①については、教職員間でマイプランを共有し、わかりやすい授業の実践に向けて取り組んだ。授業の導入時には「めあて」を提示し、終末時には適宜振り返りを行うことで授業で学んだことの定着を図ることで、90%を超える生徒が一人一人にわかりやすく教えてもらっていると考えられる。 ②については、コロナ禍の中ではあったが、1年生は多良岳登山や福祉体験、3年生は修学旅行を実施することができ、体験を通しての学習ができた。2年生は、職場体験は実施できなかったが、職業人としてのマナーや町内の生産者について調べ学習を行い、文化発表会で発表した。意識調査では、90%以上が肯定的な回答であり、自己肯定感が高い。今後もキャリアパスポートを活用して進路学習を活用していく必要がある。 ③については、担任を中心として学年職員全員で道徳の授業に計画的に取り組んだ。学年の指示板にも授業の様子や生徒の感想を掲示し、学年全体で「心の教育」に努めた。意識調査の最終結果、「心の教育に努めている」と肯定的に受け止めている生徒は97.4%、保護者は92.5%、教職員は94.1%であった。今後も学年通信や学級通信を通して保護者へ発信しながら、学校全体で「心の教育」に取り組んでいきたい。 次年度に向け、上記の反省と展望を活かして教育活動を意図的に仕組み、学校教育目標の実現につなげていきたい。
----------------	---